

平成 29 年度 京都府立北嵯峨高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なところで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者・学校評議員への授業公開や、全ての生徒・保護者アンケートの実施等により、開かれた学校づくりを進めた。 (2) 生徒指導部と学年部等の連携により、落ち着いた学習環境を提供できた。 (3) 教育相談会議を定期的開催し、要配慮生徒の現状と今後の指導の在り方について合理的配慮と併せて検討した。 (4) 地域連携及びホームページの更新を積極的に行い、広報活動を充実させた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 進路希望実現 (2) 生徒の基礎学力定着と自学自習の育成 (3) 教科指導力の向上と授業の工夫改善 (4) 交通安全意識の向上 (5) いじめの根絶に向けた取組と指導体制 (6) 地域の自然、歴史、伝統文化等の教育資源を活用 	<p>人間力の醸成</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 全教職員が連携協力して様々な教育活動を実践し、「行きたい学校」の実現に努める。 (2) 幅広い学力の生徒に対する個に応じたきめ細かい進路指導を行い、基礎基本の充実を通して希望進路の実現を目指す。 (3) 学習環境の整備に努めるとともに、学習意欲の向上と思考力、判断力、表現力の育成を目指して授業内容の改善、充実を図る。 (4) 学習と部活動の両立と基本的生活習慣の確立により総合的な「人間力」の育成を目指し、部活動の一層の充実を図る。 (5) 配慮を要する生徒（LD、ADHD、高機能自閉症等）へのきめ細やかな教育相談・特別支援教育を推進する。 (6) 人権意識が高まる教育を推進するとともに、ルール・マナーの順守やボランティア精神の涵養など、生徒の社会性が高まる教育活動を展開する。

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題	
学習指導	◇教科指導力を向上させる。	◆指導と評価の一体化を踏まえ基礎基本を徹底し学力を充実させながら、ICTの活用を含めた深い学びにつながる授業となるよう工夫改善に努める。	1	B	B	・ICT活用等も含めた指導の改善例が増えており、指導環境の整備が求められる。 ・特別な支援を要する生徒について分掌間の連携を密にすることで対応できた。
	◇特別支援教育を充実させる。	◆教職員で情報を共有し、合理的配慮の提供に努め、特別な支援を要する生徒を適切に指導する。	2	A		
生徒指導 特別活動	◇愛校心を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆制服の正しい着用を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的生活習慣の定着を図るために教職員が一致して指導する。	3	B	B	・制服の着用はかなり定着してきているが、交通規則・マナーの遵守や基本的生活習慣の確立等に向けての粘り強い指導が今後も継続的に必要である。 ・ボランティア活動については、生徒会や部活動を中心に継続して進められている。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。	4	B		
	◇生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動が中心となり、地域への奉仕活動に主体的に参加できるよう、社会性やボランティア精神を育成する。	5	B		
進路指導	◇希望進路の実現に向けて進路指導を行うとともに、キャリア意識の形成を図る。	◆学年部・教科担当者・部活動顧問が個々の生徒の学力状況・学習状況を把握し、3つの方向からの指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。	6	B	B	・連携した指導は進められているが、さらに学力を伸ばす取組の工夫が課題である。 ・学校として、高大接続改革を踏まえた、新たな全体計画の策定が必要である。
		◆キャリア教育を充実し、生徒個々の進路意識の定着を図るとともに、就職率100%、大学進学率70%などを目標に個に応じた進路指導を充実させる。	7	B		
人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	8	B	B	・様々な取組が進められており、今後さらに幅広い人権意識の醸成が求められる。
健康・安全 教育	◇配慮を要する生徒に対して適切な支援を行う。	◆保健部と担任や教科担当と情報の共有を図り生徒の状況を適切に把握し、教育相談会議等を活用して、配慮を要する生徒への支援を適切に行う。	9	A	B	・会議のシステムにより、様々な情報を共有し、丁寧な指導が行われている。 ・清掃活動をより活性化させ、学校を大切にしている自覚を持たせることが必要である。
	◇教育環境づくりを推進するとともに、環境保護の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し学校の環境を整備するだけでなく、環境保護の意識向上に向けて生徒も教職員もゴミの分別を徹底する。	10	B		
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、時代の要求に対応した図書館を目指す。	◆教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指すとともに、視聴覚機器を活用した授業を展開する。	11	B	B	・視聴覚教室の機器管理の改善もあり、図書館や視聴覚機器の利用は活発である。
安全管理 情報・文書	◇学校の危機管理体制を強化する。	◆全教職員が学校の危機管理対応について理解を深め、生徒の安心安全に適切な対応ができるようにする。	12	B	B	・安心安全な学校づくりに向けて、常に危機管理意識を高めておく必要がある。 ・個人情報等の管理については、引き続き意識向上に努めなければならない。
	◇学校の情報管理体制の徹底を図る。	◆生徒の多様な個人情報適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。	13	B		
家庭・ 地域社会との 連携	◇広報活動を一層充実し、速やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め、HPの積極的な更新等広報活動を一層充実させ、信頼される「行きたい」学校づくりを進める。	14	A	B	・学校公開等工夫されており、広報活動や情報発信等、非常に効果があった。 ・地域に信頼されるため、一層日常的に魅力ある学校づくりに努める必要がある。
	◇地域に信頼される学校づくりを進める。	◆学校評議員、学校関係者評価委員、PTAとの連携を深め 地域に信頼される学校づくりに努める。	15	B		
学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導及び進路指導において、学力テスト及び模擬試験の積極的な活用等をも含め、更なる指導の充実が望まれる。 ・自転車通学者に対するルール・マナーの遵守について、継続して指導を徹底してもらいたい。また、挨拶については年々改善が見られており、地域からの評判も変化してきている。 ・中学校や塾訪問、ホームページやSNS等の利用を通して、積極的に広報されているが、今後も一層中学校等地域の教育関係機関との連携を推進してもらいたい。 					
次年度に向けた 改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領を見据え、指導の改善を進めるとともに、基礎基本を確実に定着させ課題を解決できる力を育てることで、生徒の希望進路の実現に向けた指導を展開する。 ・身だしなみ、挨拶の励行、交通規則・マナーの遵守等に係る指導を粘り強く行い、生徒の自主性・社会性を育成しながら、安心安全な学校づくりを目指す。 ・地域の自然、歴史、伝統文化等の教育資源を活かすとともに、中学校をはじめとした幅広い連携を深めることで、地域から信頼され、選ばれる学校となるような取組を推進する。 					